

営農ウィークリーNEWS

肥料高騰に備え、「硫安」を活用し作物を育てましょう

硫安は、窒素21%の成分で、作物に必要な窒素成分の単肥です。

作物の三大栄養素を一度に施用できる、窒素、リン酸、加里を配合した複合肥料を永年ご愛用頂きましたが、生産コストを低減するため土壌分析診断に基づく施肥など新たな栽培に切り替える必要があります。複合肥料の永年の施用により、リン酸、加里の蓄積が多い、ほ場もあります。

先行き不透明となった肥料情勢に対応するため、有機質肥料や堆肥の利用、硫安など単肥を上手く活用し、収量を確保しましょう。



○硫安使用時の注意事項

- ・速効性なので一度に多くの量を散布しない。
- ・栽培期間中に数回に分けて必要散布量を施用する。
- ・石灰資材や「ようりん」などアルカリ資材と同時に施用すると、アンモニアガスとして揮散することがありますので、同時に施用しないようにしてください。

※施肥例：10アール当たりの散布量（kg）です。

作物	元肥窒素の量 (10a 当り)	硫安 (21-0-0)	げんき (10-3-5) 有機 49%	国産化成肥料 14-14-14 (14-14-14)	ふあいと エース (18-10-13)
ハウレンソウ、コマツナ(夏期)	12	55	120	85	65
ハクサイ、キャベツ、ダイコン他、 標準的施肥量	15	70	150	105	85
トウモロコシ、ナス	20	95	200	145	110
エダマメ、インゲン、ショウガ、(高 温期の葉物など)	8~10	40~50	80~100	60~75	45~55
さつまいも	3~5	15~25	30~50	20~35	15~30
追肥1(普通)	5	25	50	35	30
追肥2(多め)	8	40	80	60	45

注1) 単位の kg / 10a は、m²単位の場合の g / m²でも同じ数字。

注2) 窒素(N)、リン酸(P)、カリ(K)が重要な肥料ですが、Nは植物体を作る成分なのでNを基本に施肥量を決めます。

注3) 上記以外に、土壌pHを調節する石灰資材(苦土石灰など)、土作りの堆肥が必要です。

※ 上記の施肥例は、参考事例です。各地域の土壌状況により異なります。

※ ご不明な点は、各経済センター担当者までお問い合わせください。

-TAC information-

6月よりJAネットショップが始まります！！



いつでもどこでもかんたん注文
ご自宅まで直接お届け

利用登録お待ちしております！



ご利用には、
『WEB受注システム利用申込書』に必要事項を記入し、最寄りの支店または経済センターに提出してください。

○利便性向上へ web 受注システムを導入しました！

2022年6月よりインターネットによる肥料・農薬の受注を開始します。

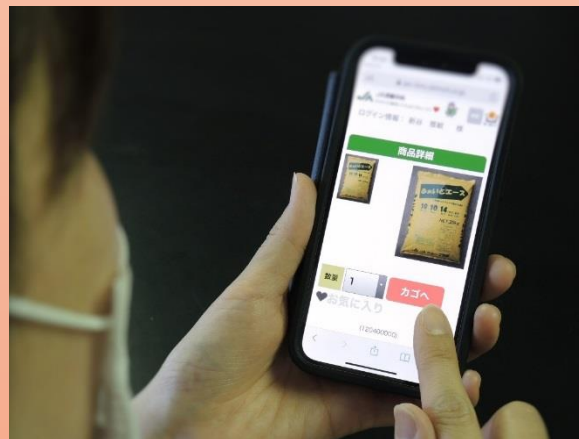
近年の電子社会と担い手農家からの要望に対応するもので、利便性の向上を目的に導入を決めました。

システムは、全農が開発し、全農京都府本部が地域に適合するようにしたものです。

利用登録した組合員がスマホや自宅のパソコンからインターネット回線を使用して、肥料や農薬の商品を専用のサイトから選んで、注文ができる仕組みとなっています。

同システムの導入は、関西以西地域では初となります。

肥料、農薬のほか、生産資材商品なども幅広く掲載を検討しています。また、年一回の予約注文書なども閲覧して予約申込ができるようにも改良していく計画です。今後、6月の開始に向け、組合員へ利用登録とシステムの案内を進めていきます。



○「京おくら」の生育状況を確認しました！



5月11日、今季の栽培が始まった「京おくら」の生育状況のほ場巡回調査を行いました。

当日は、今年新たに栽培を始めた生産者のほ場を中心に生育状況を調査しました。

今年、近畿地方では、春先から降雨量が少なく、播種後の生育が心配されていましたが、各ほ場とも順調に生育していることが確認されました。

今後、生育状況の確認を重ね、出荷目合わせ会により規格の統一などを行い、市場を通じて6月下旬頃から量販店で販売されます。

○春キャベツの出荷が始まりました！

5月6日、洛南支店管内の特産品である「春キャベツ」の出荷が始まりました。

今年は、春先より降雨量が少なく品質への影響が心配されていましたが、生産現場では、近年の異常気象にも対応できるよう技術対策を万全に行っています。

今後、6月下旬まで全農京都府本部を通じて京阪神の市場へ、3万ケース（1ケース／10kg入り）の出荷を見込んでいます。

